

## 心強いサポーター

東京芸術大学大学院  
しみず ふみ  
清水 史さん



海難審判庁では、海難審判の裁決の中から、海難の発生防止に役立つ事例を取り出し、海難分析集や情報誌「マイアニューズレター」などを発刊して、海事関係者に提供しています。

当庁の刊行物は、従来から難しい、読みづらいなどと言われてきました。そのイメージを払拭し、分かりやすく親しみやすいものにするため、平成13年9月発行のマイアニューズレターに、全国どこの海辺でも見かけることができ、私たちに馴染みの深い「かもめ」の

イラストを初めて登場させました。

この「かもめ」は、現在東京芸術大学大学院に在学中の清水史さんが描いているもので、これまでに100点を超す作品を作っていたが、これらの作品は当庁のニューズレターや海難分析集をはじめ、ホームページやパンフレットなど、さまざまな場面に登場させてきました。今では、広く海事関係者の間に親しみをもって受け入れられ、刊行物などになくはならない存在となっています。



刊行物で活躍中の「まいあ君」

「まいあ君」の誕生 清水さんに長官表彰！

かもめのデビュー3周年を記念して、愛称を募集したところ、全国から多数のご応募をいただきました。

その中から、使命感あふれるひょうきん



者のイメージ

にぴったりで、当庁の英語表記の頭文字(MAIA)をとった「まいあ君」と名付けました。

その「まいあ君」が、当庁の

広報の充実・強化及びイメージアップに大きく貢献してきたことから、「まいあ君」の生みの親、清水史さんに対して、平成17年1月6日の国土交通省設置記念日に、高等海難審判庁長官表彰を授与しました。

「まいあ君」を描くときには

勢いを付けて一気に描きます。描いてみて顔が気に入らないと気に入るまで何枚も描きます。単純な形なのですが、反対にちょっとしたことですぐ顔が変わってしまつのです。海や船などよく知らない世界のこと

なので、「まいあ君」が登場する場面が、どのような事故だったのか、どうすれば事故が起きなかったのか、詳しい話を聞きながら



一気に描いていきます。

これからも「まいあ君」が、読者の皆さんに愛され、海の安全の「かけ橋」となってくれることを願っています。

東京芸術大学大学院を訪ね、当庁の心強いサポーター清水さんを追ってみることにしました。



**鍛金を専攻**

いつからかは覚えていないのですが、小さい頃、親に絵のことを褒められたからだだと思います。あきらめずに褒め続けてくれたのでしょうか、気が付いたら「好きなこと」になっていました。

高校から美術系の学校に進みました。それから当たり前のように大学も美術学部に進みました。

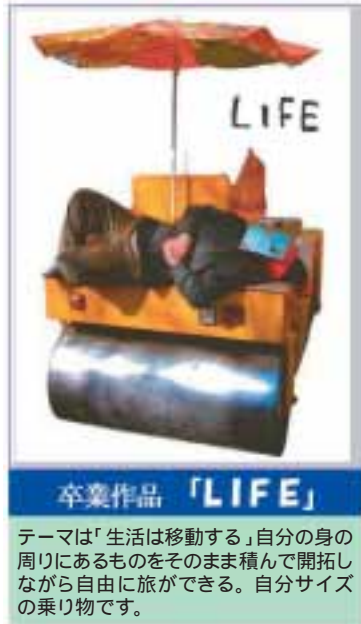
そして、「漆(うるし)を扱ってみたい」という興味がきつかけになり、工芸科の道を選びました。入ってみると、「金属ってカッ



「いい、火を扱いたい」と思うようになり、結局「鍛金」を専攻しました。親は、何やっているのか分からない私を、黙って見守ってくれているようです。

**訪れた転機**

自分にとって大きな転機となったのが、学部の卒業作品でした。普通の大学なら卒業論文にあたるものです。制作期間が長めに取られていて、4か月かけてじっくり造れました。鉄を中心に、布や木も使って、ずいぶん大きく、重いものを造りました。それまでの自分を全部出せたかと思えます。



卒業作品「LIFE」

テーマは「生活は移動する」自分の身の周りにあるものをそのまま積んで開拓しながら自由に旅ができる。自分サイズの乗り物です。

この作品は学内奨学金の「原田賞」をいただき、上野の都美術館に展示され、たくさんの方に見ただくことができました。今見るとやはり造っている当時から違う見方ができておもしろいです。

また、年に1、2回作品展示を行っています。個展ではなく「グループ展」と呼ばれる仲間との展示会です。専攻が違つ仲間が集まっていろいろな作品を展示するとなかなか面白いものです。

**めざせ！ 未来の大芸術家**

最近はずいずいですが、金属の仕事をしていただいてもして良い勉強になっています。「これからどうしていい」と、少し不安になったり、焦ったりすることもありますが、今はじっくり興味のある素材をいじって、何か「つくること」を続けていきたいですね。金属も他の素材もかわつていきたいし、絵を描くことも大好きです。絵本を描いてみたいとも思っています。当分は「やってみたいことをやる」ですね。



「社会を明るくする運動」の一環で行ったワークショップ（前列左から2番目が清水さん）



**プロフィール**

東京都出身、東京芸術大学美術学部工芸学科卒業  
東京芸術大学大学院に在学中